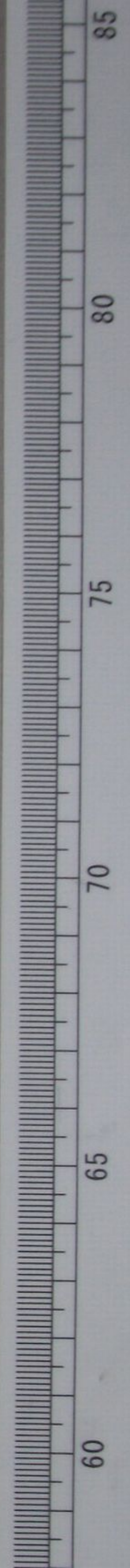




特 別
 14
 3157
 7



44
3157
7

芭蕉翁

道之影

都雀拜書

千遍ふかふ東のともて小の佛とも崇先
 無功德とやうやくふ供養の冊子をりており
 あるん事かあましく知ぬ人の鏡世写小
 神といひてあてまをせの事をあますことなん
 是むくよけ道なる事ある徳光なるや
 せめてもきくふいむ海なる事しやうの事
 手流れよ棹さすの流る程に思を報ひ徳候

謝するい志といふとあうんと門人志流に
 んをいよいよきききなく因にあらあこ
 手向のちの故を更一二席の徳道をかあ
 いししを志のふれきころはしんか
 法と見しはけ時よあふ者うきひとや

いりんとて徳君厚志のむしなれば是が

梓ノ月のせく本廟なる文庫へ納、永く

神靈の恵を致ひまゐるすも荒れしを

げんしと記せよし門人等のむしなれば

すつ勢育のむしを護ておつらむ日か

寛政乙亥秋月乙未の初し山菊はる

家の流れを清た現へせよ入まらう庵のむき

窓れもくもむしむらう菊のむしひあ

都花うのむし書して

稽首す



寛政五丑年九月十二日於洛東圓山勝興菴興行

懷舊之俳諧

芭蕉翁

山城一井もれやうの海竹もれ

みづらきもぢぬらうとさき

梅屋れも芥りう新武豊とて

きり鳥の中のみすれし



都窪

嘯山

如洋

漸く〜

都夢

踏む文〜

賀松

す〜

花溪

行〜

香堂

ぬ〜

桃李

い〜

夏栗

け〜

李冠

〜

雨曉

〜

月桂

〜

尚雪

〜

止崔

〜

文石

〜

都崔

〜

松志

〜

来之

〜

賈友

同

芭蕉翁

百々たはしむるはなほのこゝろ

はなはたしむるはなほのこゝろ

志諺

川をたふさぐはなほのこゝろ

来之

能くもたふさぐはなほのこゝろ

嘯山

いふもたふさぐはなほのこゝろ

賈友

いふもたふさぐはなほのこゝろ

貫子

いふもたふさぐはなほのこゝろ

香堂

いふもたふさぐはなほのこゝろ

巴状

いふもたふさぐはなほのこゝろ

復栗

いふもたふさぐはなほのこゝろ

李三

いふもたふさぐはなほのこゝろ

其成

いふもたふさぐはなほのこゝろ

雙鳥

遠くを来たしつゝ

言

俚尤

とてしつゝとて教へたる

湖南

高き樹影にさす

米駒

元々〜〜と割れり

都雀

橋をよりしを

真千里

五かたの飯の枝の

玉淵

水は〜〜とて

香堂

而短利り

富嶺

三

衝きぬ〜〜と

二川

中より〜〜と

九文

也〜〜と

右文

唐大〜〜と

嘯山

〜〜と

賈友

鐘〜〜と

画嶺

丁稚等〜〜と

魚千里

茶葉〜〜と

巴状

五

都府棲み月きくもさうて 唇風

お舟り遊きくもさうて 俚尤

は秋とすしらすたきのかさす 湖南

た遷る名陳の侍あき月ちと皮 如洋

一甲とて人よもくから 富嶺

山名のうらもは満ち多 賈友

きくくくくくくくくくくく 嘯山

きくくくくくくくくくくく 来之

和音自画賛の一軸あき侍りり

は日麻ききききききききき

くくくくくくくくくくく

まはきくもくくくくく

お舟り遊きくもさうて

芭蕉翁

拾りてくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく 都雀

妻柳掃雪の如く月の如くして
 例の如くは礼をわきまを
 昔の語を烟にぬかす
 山遊る水とていふ
 地はなほあはれむ
 清世の事いふは
 長年をせむ事
 是れは聖徳の如く

賈友
 来之
 嘯山
 富嶺
 右文
 二川
 尤文
 巴状

孝子の居る如く如く
 孝子の居る如く如く
 舟宿る舟の楫は海
 修る樂い事
 日向目赤く如く
 夕風を如く如く
 其の如く如く

香堂
 唇風
 吳明
 志諺
 花月
 玉淵
 雙鳥
 其成

凍解り地花紅花の村之丸 俚尤

日高の舟も平 鐘鐺傳へり 米駒

とつとつ能や 鼓の音なる 嘯山

素人の百も 舞笑の指 奥平里

舟の鼓の音 一 船の舟 吳明

遠くは 舟の舟 舟の舟 賈友

世話 一 舟の舟 舟の舟 巴状

山 舟の舟 舟の舟 舟の舟 吳明

先達り 舟の舟 舟の舟 舟の舟 魚子里

舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 来之

川 舟の舟 舟の舟 舟の舟 画嶺

舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 雙鳥

舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 吳明

舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 富嶺

舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 二川

舟の舟 舟の舟 舟の舟 舟の舟 玉洲

けしきおん合れ松島乃宿
菊井善のせし流る青毛

賈友
富嶺

一座捻香

是翁秘法を授けり乃とて

以名海と申す中此坐禪法

嘯山

百年此今猶ある小妻久丸

賈友

一五年乃流古少を此法に授け

富嶺

是翁秘法を授けり乃とて

昔のふりて海に

元禄七年にふりて海に

五口

是翁秘法を授けり乃とて

来之

名のよから枯つとも霧あはる海 斗雲

松月と暮しあはるる十二日 吳明

時を月日かぬるや六月 夫士

年と信と成るよの目

雪のよから枯つとも霧あはる海 魚千里

山あつとつゆり雪あはるる六月 玉淵

雪のよから枯つとも霧あはる海 龍文

雪のよから枯つとも霧あはる海 右文

歌中山老添師

はつて口切ら葉はるる六月 巴狀

洛西挂

雪のよから枯つとも霧あはる海 香堂

雪のよから枯つとも霧あはる海 唇風

雪のよから枯つとも霧あはる海 二川

雪のよから枯つとも霧あはる海 化来

雪のよから枯つとも霧あはる海 麥舟

雪のよから枯つとも霧あはる海 路川

雪のよから枯つとも霧あはる海 雙鳥

武州本庄

山寺のほとけのたつたけのたけ

はるかにあけのけしき

風を渡るまはりのけしき

田舎のけしき

松のけしき

おもしろいけしき

おもしろいけしき

おもしろいけしき

俚尤

貫子

采駒

湖南

松志

夏栗

義童

其成

おもしろいけしき

おもしろいけしき

おもしろいけしき

おもしろいけしき

おもしろいけしき

李三

花月

都夢

志諺

都雀

夢中見し花は春の風にあはれ

芭蕉翁

春の風にあはれ

志諺

行列乃申す

都雀

夢中見し花は春の風にあはれ

蝶夢

月白く照らす

桃宇

春の風にあはれ

巴陵

車蓋	車蓋	習之	紫曉	古塘	花月	蘭更	其成	李三
車蓋	習之	紫曉	古塘	花月	蘭更	其成	李三	
車蓋	習之	紫曉	古塘	花月	蘭更	其成	李三	

枕宇	車蓋	巴陵	紫曉	志諺	其成	車蓋	都雀
枕宇	車蓋	巴陵	紫曉	志諺	其成	車蓋	都雀
枕宇	車蓋	巴陵	紫曉	志諺	其成	車蓋	都雀

こころしとまろくまをるる	共語
塙と傷く鶴敷宇ゆ系	古塘
処より海を舟にむきまの秋	圃更
るもれくぬ早く飛 行	何大
邦をれくまをくぬの秋浦	紫曉
蒼空風了男 神 子 鳥	花月
月桂せくきの傍道も折れて	李三
菡萏の霞をあらぬ花道直	只有

東よとぬ里海をるる山伏	柳宇
くちもくまをくぬ門中花	巴陵
赤い時の日影をあらぬ春元	紫曉
政痛をくぬくも海極を記	習之
奉るまをぬ救く山灌さ	陶文
くくちをぬるあるみ雅せ次	博愛

一座捻香

枯竹の意今も今も
ちりちり 竹の音も

ささげの如き竹の音も
しるす人へ 竹の音も
うさうさ 竹の音も
ちりちり 竹の音も
土印

菊の香に耐えし者

昔の菊の遠くは

ささげの如き竹の音も
しるす人へ 竹の音も
うさうさ 竹の音も
ちりちり 竹の音も
土印

Handwritten cursive text in Japanese, consisting of approximately 10 lines of characters.

蝶夢 (Butterfly Dream)

芭蕉翁 (Basho)

都雀 (Tsuetsuki)

富嶺 (Tomine)

右文 (Umon)

連月 (Renzetsu)

左文 (Somon)

世きうに旅り秋一隊秋篠る 東皋
 未々新うしこ相乃切株 雪菴
 法樂れ連歌を干物まて 晚浦
 けーきれくる定れしこ多 青錢
 卓ふる海海の酒乃磁こら 和笑
 池乃芦洞了けこ多峰 有響
 鞠乃月陵をれ甘きもろ乃 何得
 舟乃きくこは歯 哭こら 社牛

踏ゆも海へるうこれ并こら 二川
 心し能きと況んものまも 明宇
 ころかめきつ物こまもこら 有響
 せう花も下りる坊寛乃庭 玉淵
 二月や棟とこらけ待こら 尤文
 ころきくも物れ柏子木 晚浦
 右こいにかめきくもろ 右文
 船も海よりけきくもろ 和笑

詫沙の傳々善繼乃々々々々々々々
社牛

時々々々々々乃々々乃々々乃々々々々々
東皋

生々々々々々乃々々乃々々乃々々々々々
明宇

乃々い祝乃々々々乃々番代
漣月

親の名々々々々乃々乃々乃々乃々乃々
玉淵

今乃乃乃和晴術術術術術
何得

甲乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
青錢

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
富嶺

布乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
都雀

升乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
二川

え乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
江山

後乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
丘

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
雲卷

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
志諺

一座捻香

<p> 旅人の我名 義仲寺連中一會 芭蕉翁 </p>	<p> 流るる中 石泉 雲下庵 </p>	<p> 百の月の 白の 連月 </p>	<p> 枯き 白の 東皋 </p>	<p> 川 青錢 </p>	<p> 明字 </p>
--------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------	------------------------------------------	---------------------------

旅人の我名

義仲寺連中一會

芭蕉翁

<p> 都雀 </p>	<p> 蝶夢 </p>	<p> 巨洲 </p>	<p> 蚕山 </p>	<p> 及 </p>
---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	--------------------------

石蘭
 千影
 五来
 岸溪
 雨橋
 夜来
 瓦好
 何木

青岢
 瓦支
 得往
 有文
 松笙
 朧花
 鶴助
 蓑潤

うら葉丸傾珠たけなす たけなす 柘里

たけなす たけなす 拍翁

没家寸山たけなす 馬田

鬼門乃方清たけなす 唾玉

居成たけなす 只篋

新風たけなす 血泥

六波たけなす 雄紅

名もたけなす 龍川

柳葉たけなす 杜陵

雨来

淇青

立卜

重厚

執筆

旅の宿のまゝに枯草をわらへ

芭蕉翁

名をきくはるかにせむ雲 都雀

千鳥よとがくぬきの水に 蘭更

万葉のうたをよみしは 萬井

紫の戸のまはりに 桃李

白く木槿を一枝提げ 柏由

陣のまはりにあそぶは 崔雅

うたをよみしは 俚尤

荒るるは 恭昌

馬のうたをよみしは 雙鳥

外はとをよみしは 古塘

白くはるかにせむ雲 月峯

羅をよみしは 南尺

終に 光景

七溪 播州

南路

巴流

石車

喜正

樗木 能州七尾

一形菴 加州の夕

風逸 枯尾

里沢房 甲州

市川 栗津の藤原のあし

真壽奥

唐笑 里沢

羅文 播州清水寺

九墨

天籟

呼鷄

蓬萊世の辭一もてう百の世
経るもいももた統可しと書入
衍せると統して正統をる事成乃
詞より事務乃と事成なる

丹州日ノキ

流る今も世の事菊のえんり行 沙門 亀嶽

事成の老成節次も法甚なる
あつたつとつれ二句に傍しあはる

拂ふ流るも事成りあはる事 井 斬
石もて山も事成り 豊後 田 亀洞

紀州の百回の日もあつた
徳碑あつたかて那有難防り
作の流る乃は甚なる事成り
事成り流る事成り

紀州廣

事成りの流る事成り 九 鷗坊
流る事成り 木 睡
流る事成り 許 州
流る事成り 儿 仙
杖道の侍も事成り 女 其蝶

全地

此葉

上田
山形
秋田

松風

甲州市川
遊

成美

台洲

有匪

江戸

萬井

泰昌

南浦

尺樹

豫州
松山

巴雲

海客常來此
可都里

甲州

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

百一十の山  
辰嶺

江州丸  
和州高山

百一十の山  
圓志

丹州十倉君

百一十の山  
遊可

百一十の山  
可吟

百一十の山  
雀志

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

此もも呼
自徳

信州諏訪

百一十の山
素程

江沢カク

百一十の山
二笑

百一十の山
吐雲

~~~~~



古今

棋州真上

月桂

江州小谷

洗耳

如未

何樂

古本

三敲

千ソク

百之

馬フ十

露誠

露誠

碑

露誠

五鶴

豫州松山

巴梁

撰州高規

楚石

東雪

雅遊

月兔

伏水

杏醉

...

...

...

...

...

...

...

...







三十一

武州傳駅

篁雨

常州子カタ

秋川

信州飯田

蘭二

豫州松山

蟾笑

肥後熊本

芦隠

信州月岡

信州月岡

園鼠

信州月岡

兔柳

桐里

里鳥

里風

今百圓

瓊賀

今百圓

可考



人乃もて閑うもいふと桐大楠 陸奥 素卿

さういふ女ちうも大振川 土佐 度雄

居る品も筆山にひけり方分目 安藝 唇風

とて佛さういふ物さういふもの置 丹波河守 無諱

聖女あさひいふおの川千も 甲州 敲水

何もいふ馬中いふおの山百合 備前 可也

よかといふおの山百合 備中 批二

降いふおの山百合 美濃関 芦琴

とて名を流るるもいふとて

とていふとていふとていふとて

領いふとていふとていふとて 大津 騏道

福さういふとていふとていふとて 江州八ッ

とていふとていふとていふとて 飛支

とていふとていふとていふとて 都水

とていふとていふとていふとて 花心

とていふとていふとていふとて

とていふとていふとていふとて 城州赤田 路荆







鴻丹州ウツ 蛙方

之山河州カヒタ

松江州ホシカ 社

雲坡城州依山

如雪

米山

飛飛州高山 山

竹明

春蟻江戸

曉里丹波

木越丹後

蘆近江 牛

李口備中

春處奥塩カマ

佳堂

平角奥岡

11110











斗流ヤハタ  
 李風城南  
 魯長城南  
 子静イナリ  
 文石浪花  
 梅友美濃関  
 冬古女

長州  
 薰里  
 羅風勢州  
 無曲  
 獲車  
 麴車越中  
 壺仙防州  
 百樹飛州  
 也嘯



破舟 舟ももろくもろく 舟ももろくもろく  
播州 五州

七 舟ももろくもろく 舟ももろくもろく  
讃州 指馬

小 舟ももろくもろく 舟ももろくもろく  
能州 佳超

舟ももろくもろく 舟ももろくもろく  
河日堅 洪竹

舟ももろくもろく 舟ももろくもろく

舟ももろくもろく 舟ももろくもろく

舟ももろくもろく 舟ももろくもろく

舟ももろくもろく 舟ももろくもろく  
江戸 水路

常州平カタ

舟ももろくもろく 舟ももろくもろく  
馬蹄

舟ももろくもろく 舟ももろくもろく  
永志

舟ももろくもろく 舟ももろくもろく  
遠江 遅月

舟ももろくもろく 舟ももろくもろく  
白路

舟ももろくもろく 舟ももろくもろく  
方壺

舟ももろくもろく 舟ももろくもろく  
甲斐 歌白

舟ももろくもろく 舟ももろくもろく  
江戸 敲氷

舟ももろくもろく 舟ももろくもろく  
宗讚



我くらゐの葉の影をみれば  
備後 風葉

みづのほとけの影をみれば  
備中 李山

あけの月をみれば  
肥後 如中

あけの月をみれば  
綺石

あけの月をみれば  
潭月

あけの月をみれば  
一片

あけの月をみれば  
参河 時爽

あけの月をみれば  
撰州有岡 紫狐

あけの月をみれば  
極樂尼

あけの月をみれば  
浪花 露光

あけの月をみれば  
儿蝶

あけの月をみれば  
柿文

あけの月をみれば  
素柳

素柳



枯尾州 支岳

枯浪峯 素流

洪兵庫 岩苔

冥越中 洲美

外信州 臺珉

洪信州 五什

口和州高田 馬東

口和州高田 馬東

江戶 道彦

泉北

村屋

海保氏

豊後杵築

武藏野

此柱

奥州津輕 吳江







藤尾の老婦の涼風

藤尾

おもしろい涼風

老婦 涼風

聖なる心

大津

里雪

百歩の草花

高峯

行隆

江戸の川

丹波井上

花景

不節

油川

不節

江戸の川

江州墨

掉歌

百年乃

兎水

物法

伊賀

槐主

山

杜音

そら

菊乙

ふら

呉川

あゝ

梅二

あゝ

筑前

魯白

幅

若狭

素釣

北

北雅



越中

下指子(甘)拂子(高)高平

風(甘)拂子(高)蟹卧

門(甘)拂子(高)素行

奥州 東芽

出羽 惟中

常列平カタ 千川

洞五

遅中

此の字は... 藤原... 藤原... 藤原... 藤原...

木朶

古帆

虚白

得々

文顯

宇人



肥後熊本

結し〜〜〜〜〜 龜令

結し〜〜〜〜〜 飲露

結し〜〜〜〜〜 可能 江州草津

結し〜〜〜〜〜 露月 ハツキ

結し〜〜〜〜〜 蓮車 水口

結し〜〜〜〜〜 山中 山

結し〜〜〜〜〜 丹州梅迫

結し〜〜〜〜〜 通子

結し〜〜〜〜〜 歌曉 洛

結し〜〜〜〜〜 篤主

結し〜〜〜〜〜

結し〜〜〜〜〜 只有

結し〜〜〜〜〜 貨洞

結し〜〜〜〜〜 九山

結し〜〜〜〜〜 木貞

結し〜〜〜〜〜 瓦全



Handwritten cursive script for '巴狀'

Handwritten cursive script for '光曉'

Handwritten cursive script for '洛川'

Handwritten cursive script for '雨曉'

Handwritten cursive script for '觀蹤'

Handwritten cursive script for '雲橋'

Handwritten cursive script for '洪雪'

Handwritten cursive script for '桃李'

巴狀

光曉

洛川

雨曉

觀蹤

雲橋

洪雪

桃李

棋州高觀

Handwritten cursive script for '棋州高觀'

Handwritten cursive script for '浪卷'

Handwritten cursive script for '羽走'

Handwritten cursive script for '其光'

Handwritten cursive script for '九牛'

Handwritten cursive script for '美蝶'

Handwritten cursive script for '芝上'

Handwritten cursive script for '歌雪'

枝英

羽走

其光

九牛

美蝶

芝上

歌雪



楊仙  
 古竹  
 馬南  
 子言  
 尤流  
 其葉  
 巴陵  
 輕羽

呂哈  
 甫尺  
 端山  
 美好  
 自公  
 可南  
 儲白  
 李冠



賀若

中

福

止雀

越後高田

祖明

如蘭

子坤

備前

龍尾

雲州

嘯月

東庄

里曉

丹州上林

吸波

南都

嘉乃百回

班鳩

栗津

鶴助

松本

舛六

浪卷



神備中文里

御江州田川菴

本千僧供之

志柳枝

時露計

思掛志

袖吳橋

備和州長柄歌

龍丹州上林

了釣磯

龍

龍

龍

龍

同所 画石

丹後比有路 始皓

飛州高山 一 九















一草一木皆有情  
且看春風吹綠柳  
感概して

春風吹く柳の青さ川千尋

都雀

春風吹く柳の青さ川千尋

都雀

春風吹く柳の青さ川千尋

其正

席上贈答

春風吹く柳の青さ川千尋  
都雀

春風吹く柳の青さ川千尋

都雀

寛政五丑年十月十日於洛東雙林寺

芭蕉翁百回忌法筵

短歌行

都雀

春風吹く柳の青さ川千尋

春風吹く柳の青さ川千尋

月峯

春風吹く柳の青さ川千尋

志諺

春風吹く柳の青さ川千尋

花月

春風吹く柳の青さ川千尋

笈栗



秋は名残あり 山も輝ける

義童

孫宮後も宮遷守日とほりて

文石

粒夢角の遠く なるなる

光暁

事いふは 夢のついでなる

賀松

徳のこゝろ 夢のついでなる

李三

名に女 俄に 衣をぬきて

貫子

袖の言半に 海は 湯を

斗流

時をいふは 夢のついでなる

月峯

驚きよ 夢のついでなる

蘭更

毎に人 院をたづねて

光暁

来りて 夢のついでなる

其栗

扱七寸 夢のついでなる

李三

除きよ 夢のついでなる

賀松

夢のついでなる 夢のついでなる

斗流

夢のついでなる 夢のついでなる

都雅

夢のついでなる 夢のついでなる

花月







斗流  
斗流

貫子  
貫子

其栗  
其栗

光曉  
光曉

文石  
文石

賀松  
賀松

李三  
李三

義童  
義童

花月  
花月

志諤  
志諤

斗流

貫子

其栗

光曉







法玉の海子入文りく其深雜凡雅此市へくや  
いんも極くききそつ新く以入ゆせんとも凡も揚く  
下り立て凡雅ハ揚るへき人をもすちうのくくせよ  
あもくくと入あくの懸るれハ

夏風草の日記のよきり正年忌

とほぬやまをれハかこくよ信める人のぬるたよりの  
揚るあとのをそむたこのくきりく新くをのま

ねて侍又積るあひ末を押く趣く

纏うあ七形をぬくすハ整のこせ

としうちてよめやはほあまの統ハいこくもたぐる  
とて中より飛んで揚るを凡れハ丹後乃無許と  
いんもは所りあてまに知りし中あれは是いと  
まろりスーし兼そを悦ひて入整り多季徳  
あ之夜乃宿舎をんははくしもくしたに粟津の



雑候森ともいふは又伴之は大徳は餘りなきこと  
或は大津或は播磨とれく乃知吾れ方へ  
伯よりしも阿り又知る也なる人といふより  
乃差果して美をとりやんし不若屋へけりも  
多うりきけ大倉よ又阿事ハ五十年せよハ  
あゝあゝと悦ひのお徳も美人扱すれ  
こころもたへんともあはれハ千徳よすといふ  
也

卯月申のこころを鏡ハ程なく山寺此鐘の音  
田家の鶉の鳴よ路をたて

眠るるもぬえをぬきり湖乃西

深きハトリきてよれもうんとすくひとてふ  
やゝをいひのいひはくくふんくく  
大井は師の白をよひせ

かゝるきくくくく水鏡



それより縁起よりいづれも本納の欲仙を以て  
一日輪の上の山此よりいづれより出づる人も  
志ある者縁起の如くいふべし

日蓮のいふことをいふもや志ある者縁起  
縁起の縁起すといふは縁起のいふもや縁起の  
縁起入替のいふも早く出座させよといふ  
いふも縁起のいふも縁起のいふも縁起のいふも

より集りて其人教の本に於ていふも  
もしも縁起のいふも縁起のいふも縁起のいふも  
祖師の禪のいふも縁起のいふも縁起のいふも  
縁起のいふも縁起のいふも縁起のいふも

縁起の江湖といふも縁起のいふも  
と出るも縁起のいふも縁起のいふも縁起のいふも  
縁起のいふも縁起のいふも縁起のいふも



經冊白牒き花紙はく祿しし〜  
めはすし〜  
只口を穿て粟津の宿坊乃斤す〜

〜火此も〜

部考忍は〜

交又写す

蕉門俳諧書林

菊舎太兵衛

京三余通寺町西江入ル



